

まほろばだより

2021
March
vol.36

～ Center for Diversity and Inclusion ～

第36号

● Contents ●

- ☑ Report 1 国際ソロプチミスト奈良-あすか女性研究者賞
- ☑ Report 2 第10回女性研究者学術研究奨励賞
- ☑ Report 3 教職員の保育環境
- ☑ Report 4 研究支援員配置制度利用者の声(第二解剖学 竹村晶子助教)
- ☑ Information 1 不妊治療と仕事の両立
- ☑ Information 2 研究支援員配置制度の支援対象拡大

Report

1

消化器・総合外科学講座 長井美奈子助教が 国際ソロプチミスト奈良-あすか女性研究者賞を受賞されました



写真左：鳴センター長、写真中央：長井先生、写真右：須崎マネージャー

ソロプチミスト日本財団では、様々な分野で将来性のある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の活躍への足掛かりとなる機会を与えることを目的に女性研究者賞を授与されています。

この度、当センターからの推薦により、本学消化器・総合外科学講座の長井美奈子助教が「膵癌における G-CSFR 発現の臨床的意義及び抗癌治療感受性との関係について」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良-あすか女性研究者賞を受賞されました。

国際ソロプチミスト奈良-あすかの高田邦子会長からは、「女性医師では数少ない肝胆膵領域の外科医として、今後の更なる活躍を期待したい。ぜひ頑張ってください。」と温かいエールが送られました。当センターでは今後も優秀な女性研究者の活躍を応援していきたいと思っています。

Report

2

第 10 回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者が決定しました

本学では、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等を目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。

3月1日に開催された選考委員会で慎重に審議した結果、第10回女性研究者学術研究奨励賞は皮膚科学講座の西村友紀助教が受賞の栄冠に輝きました。

授賞式および受賞者による記念講演は、中島佐一学術研究奨励賞授賞式と共催予定です。

【受賞者】 皮膚科学講座 助教 西村 友紀氏

【研究テーマ】 ①再発性帯状疱疹の臨床的、免疫学的特徴の研究
②薬剤性過敏症症候群における重症度予測マーカーとしての血清 TARC 値の有用性の研究



不妊治療と仕事の両立について

近年、晩婚化などを背景に不妊治療を受ける夫婦が増加しており、日本の夫婦全体の約5.5組に1組(18.2%)が不妊の検査や治療を受けたことがありと報告されています。2017年には56,617人(全出生児の約6.0%)が生殖補助医療(体外受精および顕微授精)により誕生しています。本学には昨年5月時点で3,041人(男性1,163人、女性1,878人)の職員が勤務しており、不妊治療を受けている(または、今後受ける)職員が相当数いると思われます。

昨今、働きながら不妊治療を受ける方も増加していますが、仕事と不妊治療の両立に困難を感じる人は多いと報告されています(平成29年度厚生労働省調査)。不妊治療は一般的に、女性により大きな精神的、身体的、時間的負担がかかると言われており、不妊治療と仕事を両立するためには、職場の理解や配慮、支援体制が求められています。

本学では、平成30年9月より当センターで、不妊治療中の女性研究者・医師が研究支援員配置制度を利用できるようになりました。現在1名の方が本制度を利用し、治療と仕事を両立されています。また、不妊治療の際に利用可能な休暇制度としては、表1のものがああります。

当センターにはここ数年、30歳前後の若い方々からも不妊治療に関する相談が寄せられています。男女とも加齢により妊娠しにくくなるため、若い世代で治療を希望する人が多くおられます。不妊治療は一定の年代の女性のみに関するのではなく、男女や広い年齢層に関係するものであることを下記にご紹介するリーフレット等を参考にご理解いただきたいと思います。

表1

休暇制度	取得単位	教員	医員	臨床研修医	正規職員 契約専門職員	嘱託職員 時間雇用職員 教室職員	申請書類
年次有給休暇	・1日単位 ・半日単位 ・時間単位(上限5日分)	○	○	○	○	○	年次有給休暇簿
傷病休暇 (※有給)	90日の範囲内で取得可能 ・1日単位 ・時間単位	○	○	○	○	—	①特別休暇簿 ②添付書類 ・診断書 ・申立書

- 休暇簿はオンライン申請に移行中です
- 申請には所属長の承認が必要です
- 傷病休暇の添付書類として「不妊治療連絡カード」を利用できる場合があります

休暇に関する詳細は人事課人事係
(内線2209、2394)までお問合せください



約8割の労働者は不妊治療に関わる実態を理解していないと報告されています。本学の職員一人一人が不妊治療に関する認識を深め、お互いを支え合うことが大切です。

《不妊治療と仕事の両立に関するリーフレット》

※厚生労働省のホームページよりダウンロード可能です。

1. 『不妊治療と仕事の両立サポートハンドブック』(同じ職場の上司や同僚向け)

職場での配慮のポイントなどがまとめられています。

☞ <https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/pamphlet/dl/30l.pdf>

2. 『不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりのためのマニュアル』(事業主・人事部門向け)

両立支援制度の導入事例などがまとめられています。

☞ <https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/pamphlet/dl/30k.pdf>

教職員の保育環境について

本学には、令和2年5月現在で3,041人(男性1,163人、女性1,878人)の職員が勤務しています(図1)。これら教職員の子育て支援の一環として、0歳児から5歳児まで各年齢の定員25人、総定員150人の学内保育園(なかよし保育園)が整備されています。定員150人は、公立医科大学の中では最も大きな規模の学内保育園です。生後57日から就学前までの乳幼児を入園対象とし、開園時間は7時から20時、金曜日には夜間保育も実施する等、教職員の幅広い保育ニーズに対応しています(なかよし保育園HP <https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/nakayoshihoikuen/index.html>)。

なかよし保育園に通う園児の保護者の職種は多岐にわたっており、医師や教員の園児も多数在籍しています(図2)。令和元年度の本学職員満足度調査において、今後育児休業を利用したいと答えた女性医師の60.6%が産後1年未満での復職を希望しており、なかよし保育園での0歳児保育の充実が女性医師の就労継続に大きな役割を果たしています。

また、病児・病後児保育に関しては、平成27年1月から民間医療機関(医療法人吉川医院)と連携し生後6か月から小学生(要相談)を対象に実施しており、さまざまな職種で一定の利用を認めます(図3、図4)。本年度は新型コロナウイルス予防の観点からも、子どもが体調不良の際には両親のいずれかが自宅で見守ることができるように職場環境を整えることが理想ですが、急な休みに対応できない場合には職員のセーフティネットになると思われます。病児・病後児保育の詳細や利用を希望される方は、総務課にお問い合わせください(内線2226)。

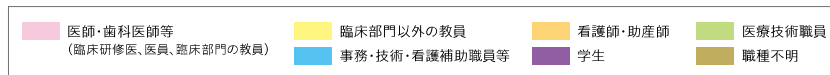


図1 公立大学法人奈良県立医科大学職員(R2.5.1現在)

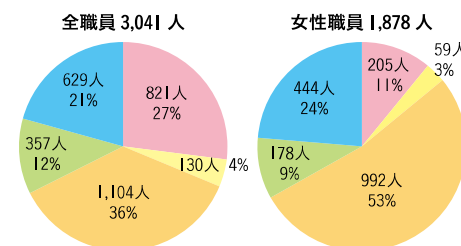


図2 なかよし保育園に在籍する全園児の保護者の職種内訳

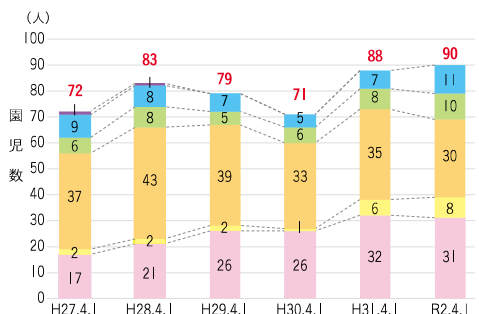


図3 連携医療機関での病児・病後児保育の利用職員数

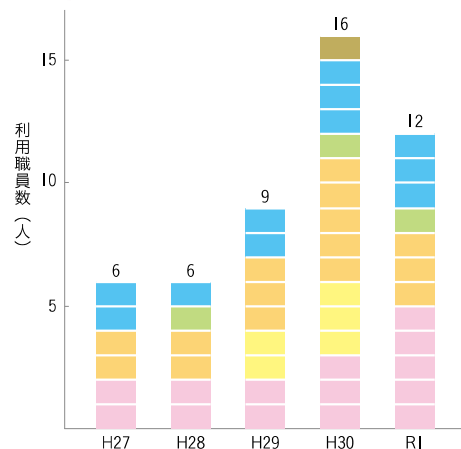
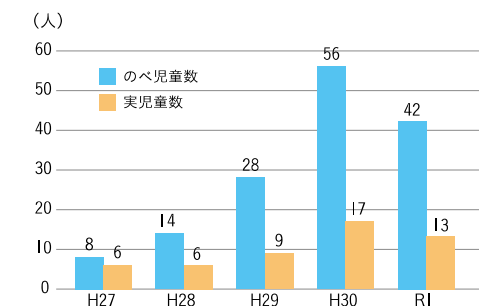


図4 病児・病後児保育を受けた本学職員の児童数



私は現在 4 歳と 2 歳の子どもがおり、1 人目の育休復帰後から女性研究者・医師支援センターが運用する研究支援員配置制度を利用させていただいております。妊娠・出産・産後という過程は身体への負担が大きいと感じた上、復帰後も以前と比べて日常的に時間の制約が大きくなり、子どもが体調を崩して急に帰宅しないといけないことが何度も生じました。子育ての時期はキャリア形成が正念場となる年代と重複しやすく、子育てと仕事の両立が大変であることは確かです。それでも、教室の先生方が子育てにご理解を示してくださり、いつも温かい態度で接して下さることと、研究支援員の石西綾美さんが実験やデータ解析を精力的に遂行して下さることで、研究と教育に力を注げる環境にあります。研究支援員配置制度を利用させていただいた結果、子どもが小さくてもなんとか継続的に論文を発表することができ、とてもありがたく思っています。女性研究者・医師支援センターをはじめ本学の皆さまが研究支援員配置制度を通じて子育ての負担を軽減してくださっていることに心より感謝申し上げます。今後もこの制度により本学の女性研究者・医師の活躍を支えていただけますようお願いいたします。



写真左：竹村先生
写真右：研究支援員の石西さん

Information

2

研究支援員配置制度の支援対象が常勤(週5日勤務)の女性病院助教に拡大されました

当センターでは、妊娠・出産、育児、不妊治療、介護等のライフイベントにより、一定期間、研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師を対象に研究支援員を配置しています。

この度、**更なる女性研究者の裾野拡大、若手の研究力向上を図るため**、常勤(週5日勤務)の女性病院助教にも支援対象を拡大することになりました。

※令和3年度上半期(4～9月)の研究支援員配置から適用いたします。

【支援の対象者】

本学に所属する常勤の女性教員(教授、准教授、講師、助教)、診療助教、研究助教及び**常勤(週5日勤務)の病院助教**で、以下に当てはまる方。

なお、研究支援員配置期間の上限は、原則として延べ5年とします。

- (1) 妊娠から出産までの期間の方
- (2) 子育て中で小学校6年生までの子供を自身で主に養育している方
- (3) 要介護者・要看病者である家族を自身が主に介護・看病している方
- (4) 不妊治療中の方

制度の利用を検討されている方はお気軽に当センターまでお問い合わせください。



【編集後記】

今回のお便りで紹介させていただいた竹村晶子先生は4月から名古屋市立大学に転出され、研究支援員の石西綾美さんは本学第二解剖学の助教に採用予定です。育児と研究を両立させ立派な研究成果を出してこられたお二人が、キャリアを發展させて新たな道を歩まれますことを心よりお祝い申し上げます。センターでは今後も、様々なライフステージに立つ女性が活躍できるように職場環境の整備に取り組んで参ります。

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp

